

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	1 キリスト教主義教育（研究科）《全学的な視点》	
中項目		
小項目	1.0.1 キリスト教主義教育を行うための組織・体制は適切か。	
要素		
小項目	1.0.2 キリスト教主義教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。	
要素	(KG1)方針、実施内容	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. ミッションステートメントを基本とする学院のキリスト教主義教育の理念の具体的なプログラム化	→キリスト教主義教育を具体化するプログラム企画を整理し、年間を通じての開催計画を明示し、チャペルアワーなども含めて、ほぼ日常的にそれが実施される体制を確保する。	B	B	B	B	/
2. ミッションステートメントを軸とするキリスト教主義理解の学院構成員への浸透	→キリスト教主義理解を提供するプログラムへの参加者数を把握し、学院構成員の半数を超える出席者が得られるよう、奨励する。	C	B	B	B	/
3. キリスト教主義教育の成果として、Mastery for Serviceを体現しうる存在としての具体的な行動への奨励	→Mastery for Serviceを体現するモデルとなる存在などを積極的に紹介するとともに、その範に従った学院構成員の活動を積極的に顕彰し、学院としてその活動の全体を把握する体制を整える。	C	B	B	B	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	昨年度同様スピリットブック『輝く自由』を必修のキリスト教教育科目を通じ、全新生に配布した。また、学部によってはチャペルに常置し、常に目に触れるように工夫した。これら資料に基づいて自校教育プログラムをすすめるために、継続してミッション展開推進委員会でプログラム等の企画を整理する課題に着手している。
目標2	これまで同様、全学部対象の春・秋の大学キリスト教週間プログラムに、延べ数でそれぞれ新生の半分程度が出席している。また日常的な各学部のプログラム把握のために、キリスト教科目のFDを兼ねた情報交換会を大学宗教主事会において行う事とし、今期は教育学部と経済学部からの報告が実施された。今後も継続して行う予定である。
目標3	各学部で行われているチャペルプログラムへの積極的参加者に対する、顕彰を行ってプログラムへの参加を促している。
備考	